

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 令和元年 9月14日
(82号)



[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
発行 學塾・中之島事務局



第八期 入塾 歓迎 !!

《歓迎のことば》

代表 宮武清寛



第八期がスタート致しました。皆様、人間学塾中之島への入塾おめでとうございます。今期も継続していただきました皆様のお顔を見てホッと安堵いたしました。ありがとうございます。

そして、新しく塾生として加わって頂いた皆様には大変感謝しています。一緒に学び、又、皆さまから学ばしていただくという期待でも胸が張り裂けそうです。一年間よろしくお願いいたします。皆様は人間学・中之島第八期にどんな期待を抱いておられますか。どんなテーマをもって、この一年間学んで行こうと思っていますか。私は、第七期は、人間力を高める為に「何に学ぶか」という事を掲げてやってきました。その結論は、日本を学ぶ事、即ち日本を知る事でした。



《美しい調和への一步を》 副代表 中川千都子

第八期人間学塾中之島にご入塾の皆様さま、まことに改めてとうとうございます。このたびの新たな縁に心より感謝いたします。

ありがとうございます。今年の五月、元号が改められ、私たちは「令和」という時代を迎えました。

首相によるとこの「令和」には「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という意味が込められているとのこと。この「美しくある」ことを思うとき、当塾の常任講師であられた鍵山秀三郎先生から教えていただいた歌が目に思い出されます。それは先の大戦で未亡人となられた九十歳を超えるご婦人の短歌です。

かくまでも醜き国になりたれば

捧げし人のたに惜しまる

言葉から溢れる、この国への身を揉むほどの慟哭と

かつて私達の祖先は、幾多の難局に直面し、それ乗り越え、国を保ってきました。日本の危機を救った人達は多くの教訓を残してくれています。それは、日本を創った人々に学ぶ、歴史に学ぶ、古典に学ぶ、そして日本の文化を体験する事でしょう。それが日本の進むべき道を学ぶことではないでしょうか。

今こそ日本人の美しい心と魂を蘇らせなければいけません。古より続く日本の伝統、日本の文化、日本の歴史、日本精神、日本の魂(大和魂)を再確認し、日本の源流を見つめ直し、源流と繋がる国柄を再発見し、日本人としての自信と誇りと先人への感謝の心を取り戻しましょう。

“人となる道”を明らかにする。 “日本国民としての道”を明らかにする。そこから自分が天から受けた天分を発揮して、未来に希望を持てる日本にするために実践行動することです。もちろん、人間学塾・中之島は塾是に掲げている通り、森信三先生の教えを中心とした学びの場です。森信三先生の代表的な著書に『修身教授録』

憂いに胸を突かれます。先人が自分の命に代えて守りきろうとした国体が、さらに時を経て今、そしてこの先どうなっていくのか。

「醜き国」を作っているのは「醜き民」です。一人一人の国民です。もちろんかく言う私とて例外ではありません。自分の中にある醜さ・狡さ・狭さ・愚かさ・に立ち止まってしまうこともしばしば。だからこそ人間学を引き続き学ぶ必要があるのだと痛感しています。

真に「美しくある」ために必要な力こそが「人間力」ではないでしょうか。

人間学塾で学ぶことは、まさにこの「人間力」です。この学びは知識ではありません。知識ならば、時代とともに古びたり廃れたり、変容していくこともあるでしょう。また世界各国どこに行っても通用するとは限りません。

しかし人間力は、古今東西老若男女の別もなく万国に通ずる力。いわばいのちの土壌となる力と言えましょう。地が豊かであればあるほどにその実りもま

という本があり、そこには、何の為に学ぶのか？何に学ぶのか？の答えが書かれています。人間学塾・中之島の学びはどちらかと言うと、人から学ぶ方に軸足を置いています。著名な講師をお招きして直接お話を聞き、その内容について皆で討論します。

人物から学ぶといえば、実は私達の廻りにも素晴らしい人達が沢山います。もちろん塾生の中にも。そんな人達との出会いや親好を深める中から多くの学びが得られます。そんな身近な立派な人達を見出して「学びの友」としてお互いに切磋琢磨していきましょう。

「学ぶ楽しさ」「出会いの感動」を常にもちたいものです。

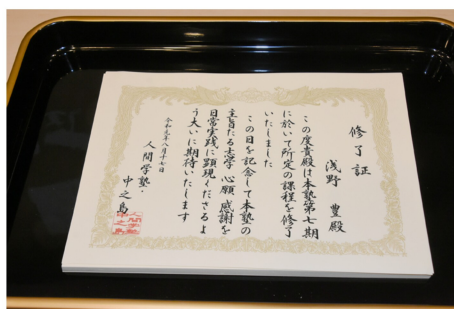
この八期も塾生どうしの繋がりが・絆で一体感のある塾にしていきたいですね。私も入塾していただきました皆様方の期待に応えられるよう全力を尽くして運営をしてまいりますのでよろしくお願い致します。

た豊かです。そして年がら年中、土地が天からの恵みを得ているのと同様に、人間力は天につながる力、人智を超えた大いなるものに支えられる力であると感じます。

この力を高めていくためには、アタマでの理解ではなく、一にも二にも行動・行動・行動、足もとの実践あるのみ。人間学塾には、特別講話の講師の先生方はもちろんのこと、机を並べる塾生もまたそれぞれの実践者です。

八期の開講にあたり、私自身もまた初心に戻り、さらなる実践・実行に向けて皆様とともにスタートを切るつもりです。

「令和」という元号に込められた、美しい調和のへ思いとは、それぞれが活力にあふれ、愛に満ちて和するということであるならば、これから始まる一年を、その実現へ向けての一步したいと思います。一年後の自分、そして皆さまを楽しみに。どうぞよろしくお願い致します。



想



親



会



《大悟徹底》

寺田一清先生寄稿録



「長期的展望の上にて」

森信三先生の有名な語録の中に「一眼は歴史の彼方を、そして一眼は脚下の実践を」と。

これを四文字に凝結しますと「着眼大局・着手小局」という言葉ともなります。

さて「若竹」誌の編者である中島和之様の帰郷が決定的となり、遠く堺を離れることとなりました。まことに一抹の寂寥を禁じえませんが、三年余りにわたるご尽力に満腔の感謝を申し上げると共に、なんとしても中島様の素志を受け継ぎ本誌継承の努力を重ねる他なきにいたしました。

ついにその読書会の運営と会誌の継続者として、ご多用の中、丸山孝明様をお願いいたしましたところ、ご快諾たまわりました。また会報誌の印刷について自発的な協力を宮本真弓様がお引き受け頂きました。ここで新たな陣容のもとに続行の見通しが立ち、まことに慶賀のいたりです。

ところで、従来の如き二十ページにわたる「若竹」誌は到底及び難きものと察せられますのでタブロイド版四面四ページにわたる縮小版の構成と相成りました。

何としても事の継続こそ最重要事であり、それには長期的な展望の上でのが「分度」をわきまえ、その「分度」を守るこそ肝要と考える次第です。それゆえ極端な縮小が余儀なくされ、ご寄稿の依頼は、編集者の意向に従い、順次お願い致しますし、字数の制限も余儀なき次第にて、よろしくご諒察を頂きとう存じます。

かさねて申しますが「分」をわきまえ「分」を守ることこそ経費の上から見ても行持・一貫・継承の要諦ではなからうかと思います。

何とぞご諒承をたまわり、新たな堺「若竹」読書会ならびに会誌の発行にご支援・ご協力のほどをお願い申し上げます。

《学塾・中之島》

■ 第八期 10月カリキュラム

※日時 令和元年10月19日(第3土曜日) **変更**

※場所 大阪大学中之島センター 10F

大阪市北区中之島四・三・五三

※講師 執行草舟先生

「運命を生きる」

1930年東京生まれ。立教大学法学部卒。実業家、著述家、歌人。生命の燃焼を軸とした生き方を実践・提唱している生命論研究者。著書に人生論『生くる』人間の老いについて語った共著『耆に学ぶ』(寺田一清名誉顧問他共著)横田南嶺老師と禅と武士道の真髓を語った対談本『風の彼方へ——禅と武士道の生き方——』その他著書多数

《お薦め書籍》

『十万人が愛した言葉』 藤尾秀昭 監修



出版社致知出版社
頒価 一・二九六円(税込)
ISBN-13: 978-4800912091

人が真剣に生きる時、人が悲しみに打ちひしがれた時、人が新しい一步を踏み出す時、言葉はいつもその人とともにあった。言葉はいつも生きる喜び、希望、勇気、力を与えてくれた人物の名言をはじめ、芥川龍之介やエジソン、二宮尊徳、『孟子』など、先知先哲の叡智が凝縮された珠玉の金言を収録。「自分を育てる」「生き方の流儀」「志を遂げる」「運命を創る」というテーマに沿って、教えるより深く味わうことができるでしょう。森信三・鍵山秀三郎・東井義雄・坂村真民ほか人の心を鼓舞した金言集。

《芳信抄》

鍵山秀三郎先生(東京都目黒区)

山川晋先生の、経営者には命より大事なものである。というお教えをいただいて嬉しく存じます。

昔の人は「恥」を大切にし、命より大事にしました。私は、小さい努力で最大の成果を得ることを「恥」として「大きな努力で小さな成果」を基本方針にしてみました。

山下武彦様(埼玉県児玉郡)

森信三先生が述べられてこととして、寺田一清先生が広めてくださったと思われる「2025年日本が世界から注目される」というお話ですが、森信三先生がなぜ2025年を定められたのか、オリンピックの話もなかった時代のことであり、不思議でなりません。現在の世界情勢を考えますと、是非そうなるて欲しいと思うのですが…。

柴田久美子様の「看取り士の仕事は五つ」大変尊いことと受け止めさせていただきました。尊厳を持つて送り送られたいですね。

大出雅一様(埼玉県川越市)

「実践人の家夏季研修会」の感動さめやらぬなかで書かせていただいています。「熱く生きる」の中で、自身を奮い立たせる言葉に、いくつも出会いました。「若さとは年齢ではない、感動・感謝する心であり、自分を変えていく気持ちです」できるだけ小さい努力で最大の成果を出すのがマネジメントの基本とされるその逆のことを今から何十年も前に言っています。言葉は現実に証明されています。寺田一清先生の「人生の師」も素晴らしいです。

加藤秀夫様(宮城県名取市)

山下晋先生の「熱く生きる」の実践哲学に、大きな学び「日本人の労働感」ありがとうございます。

森信三先生の「ミニ読書会」の様子に嬉しく拝しました。

稲垣孝志様(愛知県春日井市)

「エゴの社会になって滅びる前に泥の世界にする。愛の民が泥の世界に派遣される」7月号池田先生の言葉、私はヤマトの国の愛の民であるか?あのサリン事件で命がけで働いている人がおられたこと始めて知りました。

坂部智一様(愛知県豊田市)

山川晋先生の「熱く生きる」お話し、蛍光ペンを引きながら拝読させて頂きました。グループ討議には書かれていない語録を掲載して頂き再読の時、心読するための助けとなります。

感動語録を一つでも真に実践します。
「命より大事なものはある」心に残るお言葉です。

映画

みとりし



九月十五日 第七藝術劇場(阪急十三駅より徒歩約5分)にて、14時10分の上映終了後、主演榎木孝明氏・原案・企画柴田久美子氏の舞台あいさつがあります。